

わらべ館だより

わらべ館春まつり

5月6日まで、
毎日楽しいイベント
をやっているよ!

	5/1	2日	3日	4日	5日	6日
わらべ館縁日	○	○	○	○	○	○
本のおもちゃワールド	○	○	○	△	△	△
わらべ館唱歌教室	○	△	△	△	○	○
にこにこ楽団コンサート				○	○	×



なつかしのわらべ倶楽部 (春編)

とき 5月6日(火)
午後1時30分～
ところ いべんとほーる
対象 60歳以上の人(要予約)
内容 なつかしい童謡や手あそびで楽しめます
(参加費無料)



遊びの教室

とき 5月10日(土)
午後2時30分～
ところ 企画展示室
対象 小学生
内容 韓国の双六遊びや、プラモデル作りなど



こどもジャズ教室

とき 5月17日(土)
午後2時～
ところ いべんとほーる
内容 小・中学生がライブを行い、
地元音楽家が指導します(参加費無料)



※5月の休館日は21日です。

■問い合わせ先 わらべ館 (西町三丁目202・☎22-7070)

市民図書館の
司書が調べます

まちで見つけた「なんでだろう?」

鳥取城跡の石垣に、一つだけ丸い穴のあいたるがはまっぺい
るのは、
なんでだ
ろ??



この石は「お左近の手水鉢」と呼ばれているものです。二の丸の西端にある三階櫓跡の石壁に埋め込まれていいます。「お左近」というのは女性の名前。「手水鉢」というのは手を洗う水を入れておく鉢のことです。

関ヶ原の合戦の功績によって因幡国四郡六万石を与えられた鳥取城主となった池田長吉は、戦乱によって荒廃していた城下町の復興や鳥取城の改築などに力を尽くしました。このとき、工事現場で働く人々を励まし、先頭に立って活躍したのが「お左近」と呼

ばれる女性でした。お左近は、長吉の息子である長幸の妻に付き従って、津山からやってきた侍女であったといわれています。『鳥府志』(一八二九年)という本には、彼女は当時三十歳余りで、美しく知恵や才覚に富んだ女性であったと記されています。そして、城の工事に当たって「髪をあでやかに結い上げ、口紅やおしろいで化粧をし、華やかな絹の袴をはき、金で装飾した鍔の刀を腰に差し、竹杖をついて毎日現場であれこれと指示をするので、城の工事に従事している人たちはその姿に心を奪われて、その日の苦労を忘れることができた」と、凛々しく立ち働くお左近の様子を描かれています。定



かではありませんが、石垣の手水鉢はこのときの苦労をたたえて築きこまれたものだといわれています。戦国時代を生きた女性のパワーを感じさせるエピソードですね。

なお、『鳥府志』には久松山にあったお左近の墓の図も掲載されています。

印刷 株式会社鳥取平版社

※このコーナーでは、みなさんからの「なんでだろう?」を募集しています。秘書広報課(☎20-3159)へ。